

女子学生の日常生活における居場所に関する研究

A study on the place of female college students in daily life

高橋大輔*

Daisuke TAKAHASHI

1. はじめに

生み出される環境の質は、人間をどのような存在として、モデルとして捉えるかによって、大きく変わる。近代以降の建築計画学では、建築や都市の中で、人間が空間や施設に合理的に当てはめられ、行動を制御される存在としてモデル化されていたのではないかと考えている。その背景には産業革命を発端に合理性・効率性を求めた近代建築、それとともに現れた当時の日本の建築計画学があるといえよう。

筆者はこれまで公共建築の内部空間における人間の居場所と行動に関する研究を行ってきた¹⁻⁴⁾。その結果、建築空間の構成と行動には物理的・心理的な相関関係があることがわかり、病院や学校をはじめとする人間の行動に制御が必要な空間においては、従来の建築計画学的手法が有効であることがわかった。しかし、普段人間が生活する建築・都市空間において、必要以上の制御は生活する場所の豊かさや楽しさを失ってしまうのではないだろうか。それを契機として人の居場所には様々なカタチがあるのではないかと、計画者側が制御できなかった、もしくは想定していなかった居場所や居方に新しい場所や空間の可能性があるのでないかと考えたわけである。

鈴木毅は、近代の計画や開発がリラックスできる個室空間（自分の世界）と、アミューズメ

ント性の高いテーマパーク型の施設（別の世界）に二極化されることを危惧しており、都市のブリックスペースにおける人の居方や人の好きな場所について、観察や実験を行うことで、新たな種類の場所のデザインやビルディングタイプの再編成の可能性について述べている⁵⁾。

筆者もこれまで、前述の建築空間だけでなく、地方都市を対象に空洞化する中心市街地や中山間地域においても人の居場所に関する調査を継続的に行ってきた。前者では郊外型ショッピングモールが日常生活の居場所として高く指摘されるのに対し、後者では近所の住人の縁側、地区の小学校の空き教室、小さな診療所の待合室などが交流の場になっているというような事例を見る機会が数多くあった。

そこで、本研究では都心部で日常生活を送る若い世代の学生がどのような空間や場所を自分の居場所としているのかについて考察しようとするものである。

2. 調査方法

本研究は、日常生活の中で好きな場所もしくは重要である場所についてのアンケート調査を行った結果をもとに、若い世代の人たちの「居場所」について考察しようとするものである。

調査方法としては、女子大学生 135 名を対象に、「あなたの生活の中で、好きな（あるいは重要だと思う）場所について 4 つ教えてください」

*家政学部建築・デザイン学科

さい」という設問を A3 版用紙で与え、絵もしくは文章で提示してもらおうという方法である。これは、4 つの場所について、その度合いが強い順にその理由・誰と・どんなときに、といった回答を文章で記入してもらい、その空間については絵もしくは文章で記入してもらおうというものである (図 1)。実験時間は 60 分である。

3. 分析

3.1 全回答における指摘率分析

アンケート調査の結果、4 つの回答欄すべてを満たしたものを有効回答とし、85.2%の有効回答が得られた (図 2、表 1)。

これらの回答について、学生がどのような空間を日常の居場所として指摘しているのか、居住空間・建物施設・外部都市空間・非都市空間 (非日常的空間)・交通機関・その他の 6 カテ

グリーに分類し、集計を行った (表 1、図 3)。

まず「居住空間」であるが、これは自宅・自室・祖父母宅といったものを指摘しているものであり、33.7%を示している。「建物施設」は大学や図書館、カフェといった自分の生活の延長上にあり、親しい人がいたり、勝手を知っている環境のことを意味しており、37.4%を示している。次に「外部都市空間」であるが、これは川や公園、街路空間を指しており、「非都市空間」はライブ会場や野球場、カラオケ、映画館、神社、ディズニーランドなど非日常の体験が出来る空間を指す。これらは順に 15.2%、10.4%を示している。「交通機関」は車中や電車の中など、「その他」は恋人やペットの隣といった空間を媒介しないものを示しており、これらは他のカテゴリーよりも非常に低い 2.8%、0.4%であった。

学生情報とアンケートレポート 2012/10/29		「あなたの生活の中で、好きな (あるいは重要だと感じる) 場所を四つ記入してください」		性別	学年	学部番号	氏名
1	それはどこですか?	ランク1	2	それはどこですか?	ランク2	ランク3	ランク4
	どうしてそこが好きなのですか?			どうしてそこが好きなのですか?			
	誰とそこに行きますか?			誰とそこに行きますか?			
	どんなときに行きますか?			どんなときに行きますか?			
3	それはどこですか?	ランク3	4	それはどこですか?	ランク4	ランク3	ランク4
	どうしてそこが好きなのですか?			どうしてそこが好きなのですか?			
	誰とそこに行きますか?			誰とそこに行きますか?			
	どんなときに行きますか?			どんなときに行きますか?			

図 1 アンケート回答用紙

表 1 指摘要素集計表 (ランク 1 抜粋)

ランク1	場所	理由	性別	年代	備考
1	リビング	ゆっくりできる	ひと、家族	母-母電機-食	テレビソファ、家族と一緒にソファで食事、ソファ
2	自室	自分の好きなインテリアだから	ひと	読書、読書、読書	
3	自室の窓	風景が好きな窓から見た景色だから	ひと、家族、友人	買い物、読書など、家へ帰るときの景色	風景や空を眺め、ソファで読書、雨に濡れずに眺められる
4	大浴	ゆっくりできる	ひと、友人	読書のスペース	
5	バス	お風呂が大好き、お風呂	ひと、友人	読書、PC作業、読書	読書のスペースが広く
6	イクスピアリ	お風呂が大好き、お風呂	ひと、家族、友人	読書のスペース	読書のスペースが広く
7	自室	自分の好きなインテリアだから	友人	テレビ、読書	
8	自室	落ち着く	ひと、家族	読書、読書、読書	読書、パソコン、読書、音楽、テレビ、読書
9	自室	落ち着く	ひと、友人	読書など	読書、音楽、読書のスペースも広い
10	祖父大浴のソファ	お風呂が大好き、お風呂	友人	祖父大浴に行く	友人や祖母さんとの会話
11	自室	落ち着く	ペット	読書、読書、読書	ピアノ、音楽、読書
12	庭元のソファ	自分の好きなインテリアだから	ひと	母の電機関係	
13	大浴	友人に会える	ひと、友人	読書や読書	
14	自室	落ち着く	ひと	読書、読書、読書	
15	ベランダ	ゴロゴロできる	ひと	読書、ひとで読むたい	テレビ、音楽
16	自室	ひとで読める場所	ひと	ソファで読む	ソファに座って、読書、音楽、読書
17	自分の家の様子	作業や読書がずっとできていてもいいから	ひと	読書、音楽、ゲーム	テレビや読書など
18	自室の窓	落ち着く、落ち着く	ひと	読書	読書が好きな場所だから
19	自室の窓	お風呂が大好き、お風呂	友人	ソファの場所	どこかへ行く場所
20	テレビの前	読書のスペースが広く	ひと、家族、友人	テレビ、読書、音楽	読書のスペースが広く
21	リビング	落ち着く	ひと	読書が好きな場所、読書にしたい場所、読書のスペースが広い	読書が多い、テレビ、読書、読書のスペースが広い、読書のスペースが広い
22	フロアソファ	ソファで読める	ひと	テレビ	テレビで読む
23	自室	自分の部屋を住む、リビングで読書している	ひと	ひとで読む	
24	自室	落ち着く	ひと	読書	
25	大浴	チームの活動場所	ひと	チームの日	
26	庭元のソファ	お風呂が大好き、お風呂	ひと	テレビ	
27	庭元	ソファで読む	友人	読書	
28	ビューローソファ	好きなインテリアがある	友人	イベント	
29	自室	お風呂が大好き、お風呂	ペット	読書のスペース	
30	自室	自分の好きなインテリアだから	ひと	ひとで読む	読書、パソコン
31	自室	お風呂が大好き、お風呂	ひと、家族、友人	読書のスペース	テレビ、音楽
32	自室	お風呂が大好き、お風呂	ひと	読書のスペース	読書
33	自室	落ち着く	ひと	読書、読書、読書	
34	自室	落ち着く	ひと	読書	
35	庭元のソファ	ソファで読む	ひと	読書	読書のスペースが広く
36	自室	落ち着く	ひと	ひとで読む	
37	自室	落ち着く	ひと	読書のスペース	ピアノ、音楽、読書
38	ソファ	お風呂が大好き、お風呂	ひと、家族	読書のスペース	
39	庭元	お風呂が大好き、お風呂	友人、家族	読書のスペース	読書のスペースが広く
40	庭元	お風呂が大好き、お風呂	ひと	読書	
41	庭元のソファ	お風呂が大好き、お風呂	ひと、友人	読書のスペース	
42	自室	落ち着く	ひと	読書のスペース	
43	自室	ひとで読める場所	ひと	読書、読書	
44	庭元	お風呂が大好き、お風呂	ひと、家族、友人	読書のスペース	読書のスペースが広く
45	バス	ゆっくりできる、お風呂が大好き	ひと、友人	読書	読書のスペースが広く

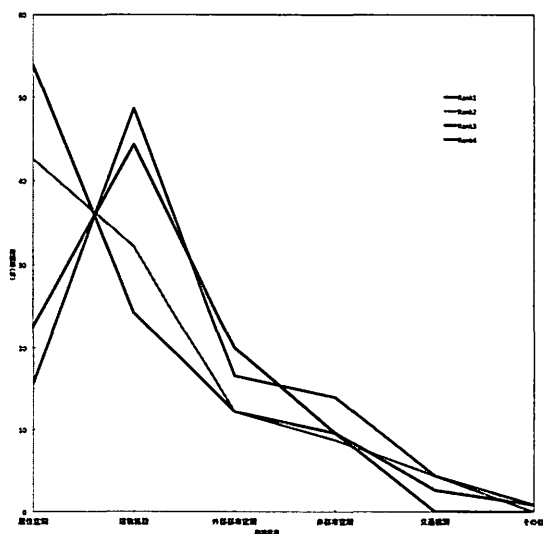


図 3 6 カテゴリー-指摘率

3.2 ランクごとにおける指摘率分析

全回答を集計した結果、「居住空間」「建物施設」といった囲われた自分のいる場所を担保できる空間が多く指摘されたが、より詳細にそれらの傾向を把握するため、1～4の回答欄（以下ランク1～4とする・図1）ごとに、前出の6カテゴリーに分類・分析し、さらにランクが推移するとともに指摘している回答の傾向がどのように変化するかについて分析を行った。

ランク1では、「居住空間」53.9%、「建物施設」24.3%、「外部都市空間」12.2%、「非都市空間」9.6%を示している。一番高い値を示している「居住空間」では「自室」と指摘しているものが非常に多く、次いで「リビング」、「浴室」などが挙げられている。これは日常的な生活を送

っていれば当然の結果であるといえよう。

「建物施設」では、「大学」「カフェ」「図書館」というような回答が多く指摘されており、自宅や自室が自分の生活拠点であるならば、その延長上にある慣れ親しんだ空間が指摘されているものと考えられる。「自室」との回答が他に比べかなり多く、ひとりで落ち着くことが出来る、自分の好きなものに囲まれている、といった理由から最も保障されている居場所であると言える。その次に「自宅のリビング」が指摘されている。また、リビングであっても、緑のカーペットの上・ソファの上や前・テレビの前といった「定位置」を示しているものがいくつか見られた。ここまではこちらが予測していたものとはほぼ同じ結果となったが、カフェや図書館といった空間がいくつか指摘されている。そこでは、居方に特徴があり、カフェではお茶を飲むといった行為よりも、読書や音楽、勉強といった自宅もしくは自室でも可能な行為を強調している点である。これはいわばリビングや自室の延長としてこれらの空間を捉えており、「ノマド」、「サードプレイス」といったものに近い居方と言えよう。「ひとり」でその空間にいる、という回答が45.2%という非常に高い値を示していることから、その傾向がわかる。

また、ランク1で「カフェ」と回答しているすべての被験者が、ランク2～4において、自宅に関する空間もしくは自室と回答しておらず、ランク4まで居住空間以外を指摘している点も興味深い。

ランク2では各指摘率が「居住空間」42.6%、「建物施設」32.2%、「外部都市空間」12.2%、「非都市空間」8.7%を示し、ランク1では回答のなかった「交通機関」が4.3%を示している。居住空間の指摘率が低くなることで、建物施設の指摘率が高くなっている。ここで指摘された「建物施設」の代表的なものとして、カフェや図書館はもちろんのこと、大学の講義室や大学のラウンジが指摘されている。カフェや図書館の指摘理由はランク1とほぼ同じ内容である

が、大学もしくは大学ラウンジの指摘理由として、友人との交流が多く挙げられている。このことから、ランク2以降、被験者の居場所が居住空間から離れはじめ、自分の通い慣れた場所へと移行していく傾向が次第に現れてくる。そのため、ひとりでその場所にいるという回答はランク1とほぼ同じ値を示しているが、友人と一緒にいるという回答がランク1の約2倍の値を示している(図4)。

ランク3では、ランク1～2と比較すると、「居住空間」の指摘率15.7%と低い値を示すとともに、「建物施設」48.7%、「外部都市空間」16.5%、「非都市空間」13.9%の値が高くなっている。ランク2までは自分がひとりになれる場所、もしくは家族といる場所といった親しみ慣れた空間を選択していたのに対し、ランク3以降では、友人や恋人と一緒にいることが出来る場所や都市空間へと被験者の居場所が移行し始める。その居場所を選択する理由として、ランク1～2までは落ち着くことが出来る、家族とのコミュニケーションがとれるといった、被験者の住み慣れた空間が回答に表れている。また、ランク2までは空間の中心へと向かい、囲い込まれるイメージが強いのに対し、ランク3以下では空間の中心から外へと分散していくイメージが強くなる(図3)。

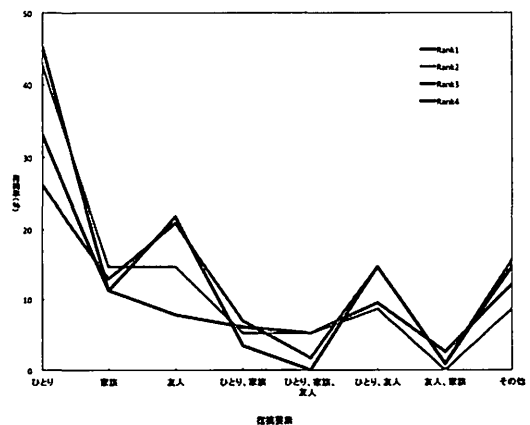


図4 空間を共有する人の指摘率

ランク 4 では、「居住空間」22.6%、「建物施設」44.3%、「外部都市空間」20.0%、「非都市空間」9.6%、「交通機関」が 2.6% を示している。ランク 1 においてカフェ以外で、自宅に関する空間もしくは自室と回答していない被験者は、ここで「居住空間」を指摘している。ランク 1 において居住空間以外のものをあげている場合、ランクが下がるにつれて居住空間を指摘する傾向があり、特に開放性の高い空間や非日常的な空間をランク 1 において指摘している場合にはその傾向が強くなることが分かった。また、「外部都市空間」の指摘率がランク 2 からランク 4 へと移行するにしたがって高い値を示す傾向にあるが、これは、「近くの川を見る」「近所の公園に行く」「綺麗な景色の見える高台に行く」というような気分転換やリラックスを目的とした行為が多くなっているためであり、このような場所にはひとりで行くという回答が多かった。

4. 総括

女子大学生の日常生活における居場所に関し

てアンケート調査・分析を行った結果、ランクごとのそれぞれの特徴を明らかにすることができた。今後は性別や地域性に違う特徴があるのか、継続して調査を行っていく予定である。

参考・引用文献

- 1) 船越徹、積田洋、高橋大輔：「建築・都市計画のための空間の文法」, 彰国社 (2011)
- 2) 和田浩一、佐藤将之、高橋大輔「フィールドワークの実践」, 朝倉書店 (2011)
- 3) 高橋大輔：「美術館ホワイエ空間における座席選択と着退席行動に関する研究」, 2011 年度日本建築学会関東支部審査付き研究報告集 7], pp.89-92 (2012)
- 4) 菊地真理子・高橋大輔・林美沙：「つくば市における公民館建築の使われ方に関する研究」, 日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1 分冊, pp.101-102 (2011)
- 5) 舟橋國男編著：「建築計画読本」, 大阪大学出版会 (2004)